

公益社団法人 高松市歯科医師会

平成 27 年度 第 2 回学術講演会のご案内

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

咬合・有床義歯補綴学分野教授

皆木省吾先生 御講演



日時： 平成 27 年 11 月 28 日（土） 午後 7 時～午後 9 時

会場： 高松市歯科救急医療センター

テーマ： （演題・抄録・まもなく届く予定です）

- ①フレイル、サルコペニアをおこした超高齢者の総義歯製作・調整法のポイント
- ②大規模災害時義歯製作法

（～避難所での肺炎予防は口腔ケアだけではない、歯科としての貢献）

Frailty とは、高齢期に生理的予備能 が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡など の転帰に陥りやすい状態で、筋力の低下により動作の俊敏性が失われて転倒しやすくなるよ うな身体的問題のみならず、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題、独居や経済的困 窮などの社会的問題を含む概念です。（日本老年医学会からのステートメントより）

歯・口の機能低下は、加齢性筋肉減弱症（サルコペニア）や運動器症候群（ロコモティブシンドローム）の前兆とも考えられ、「オーラル・フレイル」の予防がひいては、全身の健康に寄与することもわかってきています。
特に、栄養面からみると、歯・口の健康への関心度が低く、歯周病や齲蝕を放置して重症化を招き、歯を喪失するなどして口の中の機能が低下していくと、滑舌が悪くなったり、食べることができないものが増えたりして、食欲低下やバランスの良い食事を摂ることができず、噛む力や舌の動き、食べる量が低下し、低栄養、代謝量の低下、サルコペニアを引き起こす要因となり、ひいては要介護状態に陥ることとなります。（日本歯科医師会 HP より）

御略歴

1982年 広島大学歯学部 卒業
1982年 広島大学大学院歯学研究科(歯科補綴学第一)修了(歯学博士)
1987年 国家公務員等共済組合連合会 呉共済病院歯科医長
1988年 広島大学歯学部 歯科補綴学第一講座 助手
1989年 岡山大学歯学部 歯科補綴学第二講座 助手
1990年 岡山大学歯学部附属病院講師
1995年 米ミシガン大学客員講師
1996年 岡山大学歯学部助教授
2002年 岡山大学大学院医歯学総合研究科 (現 医歯薬学) 教授

演題、抄録が届きましたら正式にご案内致します。

**対象 ; 基本的には高松市歯科医師会会員、会員院所スタッフ・家族です。
(香川県歯科医師会会員も参加可能です)**

内容は歯科医師を対象としたもので、とお願いしております

参加申し込み方法 ; 参加申し込み用紙ができましたらご案内致します。